

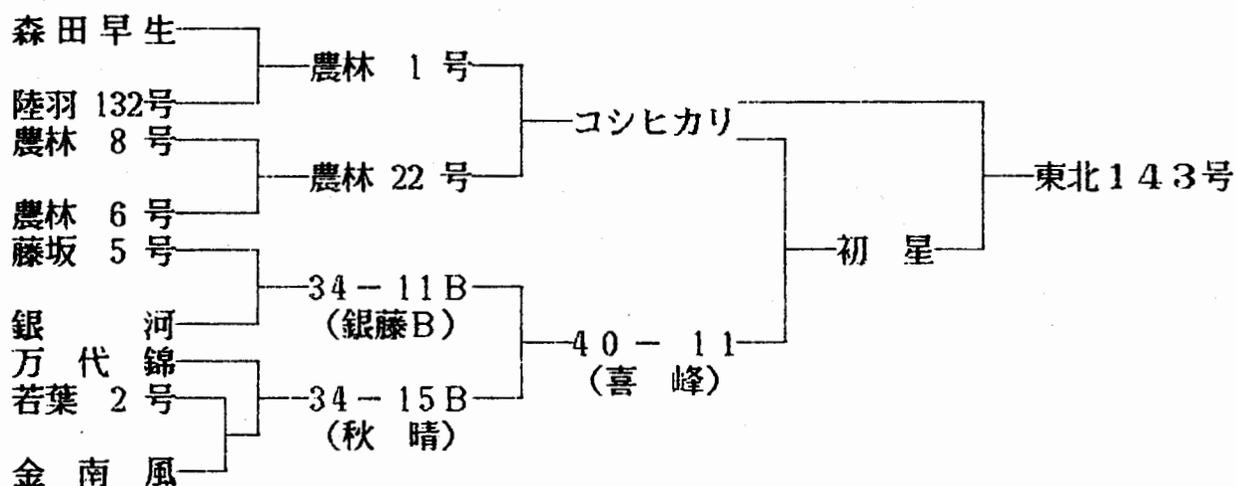
水稻（うるち）「東北143号」（奨励品種）

（農試県南分場）

1 来歴

「東北143号」は宮城県古川農業試験場において「コシヒカリ」を母親、「初星」を父親とする交配から育成されたもので、本県では昭和63年に奨励品種決定予備試験、平成元年からは奨励品種決定本試験並びに現地試験に供試して、地域適応性を検討してきたものである

系譜



2 特性の概要

- (1) 出穂期は「ササニシキ」並、成熟期は「ササニシキ」よりやや早く、「トヨニシキ」よりややおそい、岩手県では「晩生の中」である。
- (2) 稈長は「ササニシキ」並、穂長は「ササニシキ」よりやや長く、「トヨニシキ」よりやや短い。穂数は「ササニシキ」より少なく、「トヨニシキ」より多い、やや長稈の偏穂数型品種である。
- (3) 耐倒伏性は「ササニシキ」よりやや強く、「あきたこまち」よりやや弱い「やや弱」である。
- (4) 収量性は「ササニシキ」並～やや少収であるが、「ササニシキ」に比べ年次による変動が少なく安定している。
- (5) 玄米千粒重は「ササニシキ」より重く、玄米の外観品質は「ササニシキ」よりやや優れる。
- (6) いもち病抵抗性遺伝子はP i - i と推定され、葉いもち抵抗性は「やや弱」、穂いもち抵抗性は「中」である。
- (7) 障害型耐冷性は「ササニシキ」より強く、「トドロキワセ」並～以上の「極強」である。
- (8) 穂発芽性は「トドロキワセ」並の「難」である。
- (9) 食味評価は「ササニシキ」より明らかに良好である。

3. 岩手県で奨励品種に採用する理由

岩手県の主要品種である「ササニシキ」は良質・良食味であるが、年次・地域によって収量品質に不安定さがあり、いもち耐病性・耐倒伏性に難点がある。「東北143号」はいもち耐病性・耐倒伏性が「ササニシキ」より優れ、収量性が並～やや劣るが、年次による変動が少なく安定している。品質もまさり、耐冷性は極強、穂発芽性は難、食味は明らかにまさっている。このため、本県中南部の作柄安定化と産米の品質・食味の向上を図るために「東北143号」を奨励品種に編入する。

4 適応地域

北上川中下流地域の標高 100m以下の地帯。当面の普及見込み面積は10,000 ha。

5 栽培上の留意点

- (1) 基肥窒素量は「ササニシキ」よりやや多めとするが、多肥栽培は倒伏や品質低下の原因となるので避ける。
- (2) 穂数・一穂粒数が「ササニシキ」より少ないため、栽培密度は十分に確保する。
- (3) いもち耐病性は「ササニシキ」よりやや優るが、「あきたこまち」より劣るため「ササニシキ」に準じた適期防除に努めること。
- (4) 刈取適期については「ササニシキ」より登熟が早いので、当面は出穂後の日平均気温の積算で 900~1150℃を目安とし、遅刈りにならないようにする。

6 試験成績

系 統 名 ・ 品 種 名		東北143号		ササニシキ (標準)	
早 草	晩 生 型	晩 生 の 中 型 偏 穂 数		晩 生 の 中 型 穂 数	
施 肥 量		標 肥	多 肥	標 肥	多 肥
出 穂 期 (月・日)	成 熟 期 (月・日)	8 . 12	8 . 9	8 . 12	8 . 9
稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	82.9	87.5	83.1	87.6
穂 長 (cm)	穂 数 (本/m ²)	17.5	18.6	17.2	18.3
玄 米 収 量 (kg/a)	収 量 対 標 準 比 (%)	59.7	63.8	58.5	59.0
玄 米 千 粒 重 (g)	玄 米 品 質	102	108	100	100
		22.3	22.2	21.2	21.0
		中 上	中上~中中	中上~中中	中中~中下
芒 の 多 少 ・ 長 短 色 性	先 粒 性	少 黄	・ 短 白	少 黄	・ 短 白
* 耐 倒 伏 性	* 穂 発 芽 性	や や 弱	難 や 難	や や 弱	難 や 弱
* 穂 障 害 型 耐 冷 性		極 強		や や 弱	や や 弱
耐 病 性	* 葉 い も ち 病	や や 弱	弱	や や 弱	弱
	* 穂 い も ち 病	や や 弱	弱	や や 弱	弱
	* 白 葉 枯 病	や や 弱	弱	や や 弱	弱
食 味		上 上		上 中	
品 種 名		未 定			

注1) *印は主に育成地及び特性検定試験地の評価に基づいた。

注2) 調査地は県南分場(昭和63年~平成2年、但し多肥は平成元年~2年)